

東海大学の新たな地域連携

ト コ ラ ボ

「To-Collaboプログラム」始動

—To-Collaboプログラムによる全国連動型地域連携の提案—

Tokai university Community linking laboratory

—— ト コ ラ ボ To-Collabo プログラム ——

全学を挙げて地域連携・貢献を推進し、
パブリックアチーブメント型教育の構築を目指します



東海大学 学長

高野 二郎

東海大学は、「教育」「研究」「社会連携」「国際連携」の4つの柱を大学の使命として様々な活動を進め、人材育成に努めて参りました。特に社会的実践力を有した人材の育成のための具体的な教育施策として「自ら考える力」「集い力」「挑み力」「成し遂げ力」の「4つの力」の育成を教育目標に掲げ、その育成のため、地域社会との連携の重要性に鑑み、2006年度からチャレンジセンターを立ち上げ、学生による自主的な活動を支援する体制を構築いたしました。

また、「4つの力」の育成は正課カリキュラムにも導入して来ました。産学連携や地域貢献は創設時からの本学の取り組みであり、これを通しての学生の成長支援、人材育成は、本学の教育の目指すものであり、近年は社会の期待でもあります。

こうした中、この度文部科学省の「地(知)の拠点整備事業」に採択され、地域に志向した取り組み大学として「To-Collabo プログラム」を立ち上げました。チャレンジセンターによるこれまでの社会貢献活動の実績を生かし、従来、各校舎によって行われていた様々な地域連携活動を結びつけ、総合大学として地域連携・貢献を推進していく所存です。同時に、全学で実施しつつある教育改革、組織改革をさらに進展させ、地域連携に関する全学的な必修科目の設置、従来のサービスラーニングを一步進めた「パブリックアチーブメント型教育」の構築を目指します。

今回のプログラムの大きな特徴は、全国18学部の多様な分野の教職員と学生を担い手とし、地域の諸課題を各キャンパスが共有し、連動することによって成果を挙げることです。東海大学では、全学一丸となってこの計画を着実に実行し、総合大学として本学の特色を生かし、地(知)の拠点として社会への責任を果たす所存でございます。

それぞれの地域の皆さまにも本学の取り組みにご理解、ご協力を賜りますようお願いいたします。

To-Collaboプログラムの概要と推進事業

To-Collabo(トコラボ)プログラムの概要

「To-Collabo(トコラボ)プログラム」は、全国にキャンパスが広がる本学ならではの「全国連動型地域連携活動」を柱に、地域特有の課題や全国共通の課題を全ての教職員・学生が共有し、協力して解決策を見出す取り組みです。

この活動を通して「大学共通教養科目の改革」を教育改革計画の中心に据え、地域連携を前提とした「パブリックアチーブメント^(※)型教育」を取り入れた全学的なカリキュラム改革と組織改革を実行していきます。

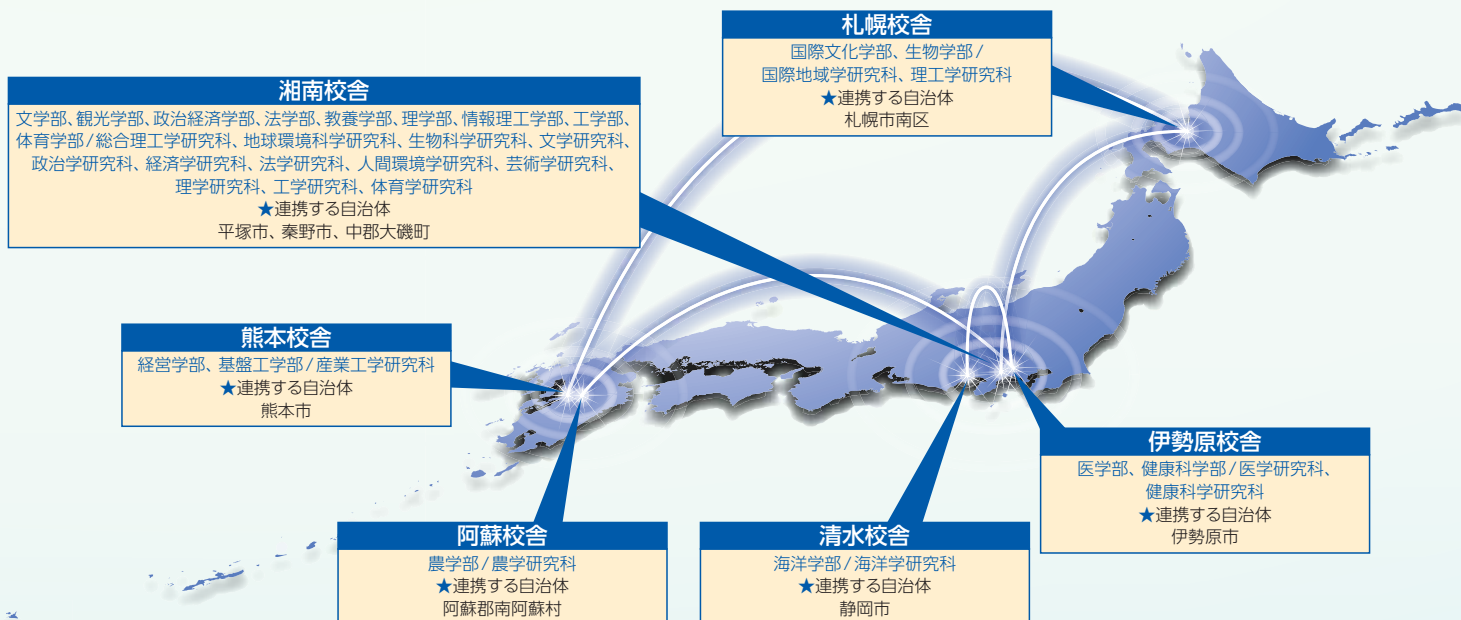
なお、To-Collaboとは、**To**kai university **Co**mmunity **li**inking **labo**ratoryの略称であり、日本全国に拠点を有する総合大学である東海大学(Tokai University)の特長を活かした地域と大学の教育・研究の連携研究所(Community linking laboratory)を示す名称です。

※「パブリックアチーブメント」…若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していく実践であり、そのための組織と学習プログラム。(3ページ参照)

平成25年度 文部科学省「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」について

「To-Collaboプログラム」は、平成25年度の文部科学省の公募事業である「地(知)の拠点整備事業(大学COC事業)」として採択されたものです。

同事業は、「大学等が自治体と連携し、全学的に地域を志向した教育・研究・社会貢献を進める大学を支援することで、課題解決に資するさまざまな人材や情報・技術が集まる、地域コミュニティの中核的存在としての大学の機能強化を図ること」を目的としています(文部科学省資料より)。今年度は319件の申請があり、52件が採択(私立大学では180件中、15件の採択)されました。本学のような全国にキャンパスが広がる総合大学の採択は他になく、これまでの教育・研究・地域貢献における取組みがさらに発展することを目指しています。



To-Collaboプログラムの推進事業

当該地域の共通課題から想定される4つの計画・8つの事業(4ページ参照)をテーマに、大学の多様な知・人・力を結集して解決策を探り、学生に「自分にできることは何か」を考え行動する教育的機会を提供し、社会で活躍できる人材を輩出するための教育・研究・社会貢献プログラムを設定する

「パブリックアチーブメント型教育」を推進

本学では2009年に東海大学が社会的な実践力を養うための具体的な教育目標・育成する力として「4つの力」を策定致しました。これは本学の教育理念を現代社会に対応させて、分かりやすく表現したものである一方、社会で求められている『学士力』や『社会人基礎力』とも呼応するものです。

社会的実践力を養うために東海大学が育成する「4つの力」

- 1 「常に未来を見据え自らが取り組むべき課題を探求する力」=自ら考える力
- 2 「多様な人々の力を結集する力」=集い力
- 3 「困難かつ大きな課題に勇気をもって挑戦する力」=挑み力
- 4 「失敗や挫折を乗り越えて目標を実現していく力」=成し遂げ力



この「4つの力」の実践的教育を推進し、さらに学生の実践的活動を支援する部署として、本学では2006年度からチャレンジセンターを立ち上げ、既に様々な実績を積んできました。

一方、本学の教育の核となる全学必修科目「現代文明論」などを中心に、文理融合教育の基盤として全学で教養教育を実践してまいりました。

今回の教育改革では地域と連携し、より一層社会で活躍できる人材を輩出するため、従来のサービスラーニングやアクティブラーニング型教育の発展形といえる「パブリックアチーブメント型教育」を全校舎、全学部で取り入れることにしました。

「パブリックアチーブメント」とは、立場や状況の異なる市民が社会で共存するためのルールを作り、環境整備を行う市民運動の中で、若者が社会活動を通して民主社会における市民性を獲得していくための実践及びそのための組織と学習プログラムを示します。学生や教職員が社会に出て実際に活動を行い、また地域社会からも学内に市民を迎え入れ、開かれた大学を目指すことで学生はシチズンシップを身につけることができるものです。

このように、本学では全学での教育改革を行い、理論と実践を融合した「パブリックアチーブメント型教育」によって、全国に共通する課題を解決するための人材の育成を目指します。



「4つの力」のイメージキャラクター
リッキー

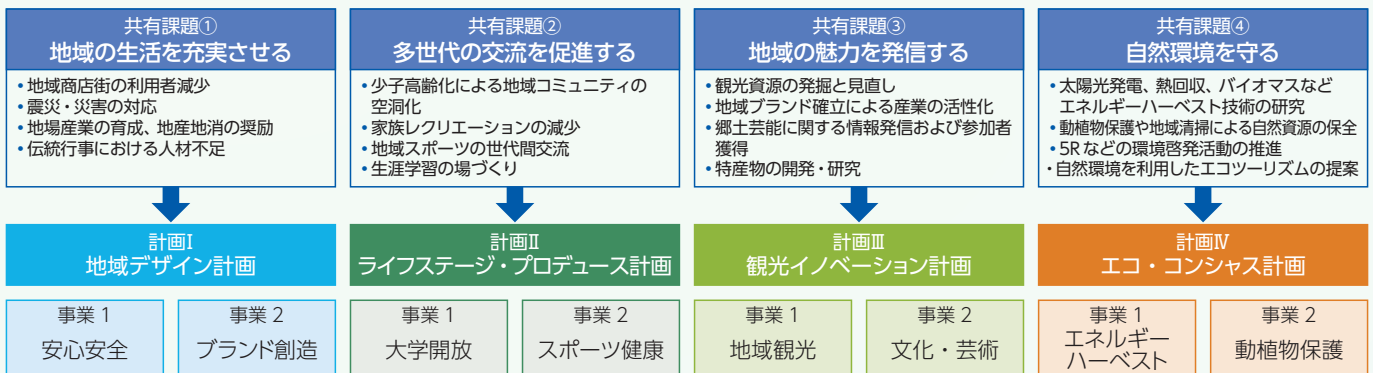
To-Collaboプログラムの研究計画

研究計画の目標

4計画8事業をテーマに総合大学を拠点とする 地域連携研究の新たな価値とスタイルを構築

本学の創立者 松前重義博は「大学で生まれた知は社会に還元されるべきである」という理念を持っていました。これまでもその理念の基、全国の各校舎に研究支援部署を配置し、それぞれの地区の特徴に応じた地域密着型の産官学連携活動を行ってきました。それらの研究活動の中には学部・校舎複合型のものも多くあり、その成果を社会に還元してきました。

To-Collaboプログラムでは、以下のような全国の共通課題を抽出し、その課題を解決するために、4計画8事業を展開します。この事業を推進するため、学内にある学部・研究科・研究所・センター等の研究(シーズ)と地域の課題(ニーズ)をマッチングさせる地域コーディネーターを配置し、一つの地域における課題に対して総合大学の知・人・力をフレキシブルに連繋させて、解決に向けた研究活動を積極的に行っていきます。



これまでの成果や実績

To-Collaboプログラムによりさらに発展



研究発表の様子



エコ・コンシャス計画に基づく自然保護活動



地域ブランドによる商品開発

To-Collaboプログラムの社会貢献計画

社会貢献計画の目標

各校舎ですでに行っている地域連携活動を4計画8事業に束ね、18学部の「知・人・力」を結集する社会貢献活動に発展

本学には、これまでも地域との連携を推進する部署として、学長室企画課、事務課、社会連携イノベーションセンター、チャレンジセンターなどがあり、現在各校舎でそれぞれの地域課題に応じた約300件(教育プログラム約200件、研究プログラム約100件)の連携事業が実施されています。

具体的には、一般市民を対象にした講演会や生涯学習講座、市民のニーズに応える大学図書館の利用開放、海洋調査研修船「望星丸」による中学生の洋上体験研修を行っています。また、チャレンジセンターの学生を中心としたプロジェクトでは、各校舎で社会貢献および地域連携をテーマにした活動を行っています。

To-Collaboプログラムでは、これまでの実績ある活動をさらに発展させ、全校舎において全国連動型地域連携活動を展開していきます。



私立大学で唯一の海洋調査研修船(望星丸)

これまで各校舎で個別に行ってきた地域連携活動

To-Collaboプログラムによる集約・事業化



地域デザイン計画



エコ・コンシャス計画



ライフステージ・プロデュース計画



観光イノベーション計画

To-Collaboプログラムの到達目標

2013年度から2017年度にかけて目標とする成果

東海大学では、2017年度までの5年間、全国連動型のTo-Collaboプログラムを通じて下記の成果を目指して取り組んでいきます。

なお、その成果を蓄積したデータベース(To-Collabo Case)を公開し、全国の地域・大学に還元していきます。

2017年度
(平成29)

- **教育改革**：「パブリックアチーブメント型教育」導入による社会的実践力を備えた人材育成
- **研究活動**：現在と将来を見据えた研究活動による「知」の社会還元
- **社会貢献**：教育・研究活動とリンクさせた地域連携・社会貢献活動の展開
- **組織改革**：①教育・研究・社会貢献の学内活動を連携する組織作り《To-Collabo推進室》
②座学と実践を融合するための教養教育組織の再編《フロンティア教育センター》
③地域課題(ニーズ)と研究活動(シーズ)のマッチングを強化《地域連携研究センター》

2016年度
(平成28)

2015年度
(平成27)

2014年度
(平成26)

2013年度
(平成25)

地域の課題解決・人材の輩出

To-Collaboプログラム

教育

社会的実践力を身につける
パブリックアチーブメント型教育

全学必修3科目

- ・ボランティア
- ・シチズンシップ
- ・地域理解

+ 副専攻

社会貢献

- ・ボランティア活動
- ・世代間交流促進
- ・地域振興策検討
- ・自然環境保護活動

研究

- ・特産物の開発・研究
- ・太陽光発電、熱回収、バイオマスなど
エネルギーハーベスト技術の研究

地域

札幌校舎

〒005-8601 北海道札幌市南区南沢5条1-1-1
● 国際文化学部、生物学部／国際地域学研究科、理工学研究科

代々木校舎

〒151-8677 東京都渋谷区富ヶ谷2-28-4
● 観光学部／実務法学研究科

高輪校舎

〒108-8619 東京都港区高輪2-3-23
● 情報通信学部／情報通信学研究科

湘南校舎

〒259-1292 神奈川県平塚市北金目4-1-1
● 文学部、観光学部、政治経済学部、法学部、教養学部、理学部、
情報理工学部、工学部、体育学部／総合理工学研究科、
地球環境科学研究科、生物科学研究科、文学研究科、政治学研究科、
経済学研究科、法学研究科、人間環境学研究科、芸術学研究科、
理学研究科、工学研究科、体育学研究科

伊勢原校舎

〒259-1193 神奈川県伊勢原市下糟屋143
● 医学部、健康科学部／医学研究科、健康科学研究科

清水校舎

〒424-8610 静岡県静岡市清水区折戸3-20-1
● 海洋学部／海洋学研究科

熊本校舎

〒862-8652 熊本県熊本市東区渡鹿9-1-1
● 経営学部、基盤工学部／産業工学研究科

阿蘇校舎

〒869-1404 熊本県阿蘇郡南阿蘇村河陽
● 農学部／農学研究科

お問い合わせ **To-Collabo**(トコラボ)推進準備室

Tel. 0463-58-1211 (代表)

FAX. 0463-50-2034

E-mail: coc@tsc.u-tokai.ac.jp

http://www.u-tokai.ac.jp/